

組立・施工・取扱説明書

お客様保管用

スレンダーキャップ

このたびは、当社商品をご採用いただきまして、誠にありがとうございます。この商品を安全に正しく施工していただくため、この「組立・施工・取扱説明書」をよくお読みのうえ、正しく作業を行ってください。

安全のために必ずお守りください

ここに示した注意事項は安全に関する最も重要な内容です。人身事故や財産への損害を未然に防止するため、お守りいただく内容を説明しています。内容をよく理解して本文をお読みください。また、本説明書および当社カタログに記載されている内容に反する施工やご使用をされた場合、保証対象外となります。

安全記号



警告

- 取り扱いを誤った場合、使用者が死亡もしくは重傷を負う可能性がある危険度が「高い」内容を示しています。



注意

- 取り扱いを誤った場合、使用者が中、軽傷を負う可能性がある内容、または物的損害の可能性があり危険度が「中、軽い」内容を示しています。

一般記号



ポイント

- 組み立て、施工手順で、特に注意して作業を進める必要がある内容を示しています。
- 注意して守っていただかないと、組み立て、施工が困難、あるいは強度不足のため、施工後不具合が発生する可能性がある内容を示しています。

組立・施工上のご注意



- 屋上やがけの上など、商品が落下した場合にケガをする可能性のある高所には設置しないでください。
- お子様が進み台として使用し、転落事故につながる場所への設置は絶対にし



注意

- 組み立て、施工場所の整理整頓、適切な安全確保を行ってください。高所作業での転落、工具、部品の落下や倒壊の防止、暗所作業時の照度の確保などを必ず行ってください。
- 工具、器具、保護具(作業服、保護帽、安全靴、安全帯、その他作業者身体の保護具)などは、安全機能を十分に確認し、正しく使用してください。また不具合のあるものは使用しないでください。
- 組み立て、施工は正しく行わないと危険です。組み立て、施工前に必ず取扱説明書をお読みください。
- 必ず取扱説明書に従って正しく施工してください。正しい順序で施工されなかった場合には、商品の強度など性能が低下するほか、倒壊につながる場合があります。
- 梱包明細表で必要な部材、部品がすべて揃っているか確かめてから、組み立ててください。
- 設置場所に正しく施工でき、不具合なく使用することができることを確認してください。
- 給湯、暖房機などの熱排気が商品で妨げられ建物内部にこもったり、適切な換気ができなくなるような場所には設置しないでください。
- 給湯、暖房機などの排気熱が直接商品に当たると被膜の劣化、はく離につながります。熱の影響のない場所に設置してください。
- 通路など、通行の妨げになる場所には設置しないでください。
- 防犯上、不審者が踏み台として使用し、侵入が容易になるような場所には設置しないでください。

- 高台、強風地域、特にがけの上、屋上、風の通り道などへの設置は避けてください。
- 風の強い場所では、商品の周囲に十分な空間を確保してください。周囲を囲うと商品に予想以上の風圧がかかり、破損、倒壊の可能性があります。
- 水はけの悪いと思われる場所には設置しないでください。
- 常に水や温水に触れたり水没する場所、また温泉やそれに類する水質に触れたり水没したりする場所には設置しないでください。
- 振動、衝撃のある場所には設置しないでください。商品の破損、倒壊につながります。
- 大気中に強い酸やアルカリ成分が多く含まれる場所には設置しないでください。商品の性能が低下する可能性があります。
- アルミ製品は、鉄や銅など(ステンレス以外)の異種金属と直接接触すると、腐食する可能性があります。接触する場合は、ビニールテープを巻くか塗料を塗るなどの処理を行ってください。
- 腐食成分(塩素イオンなど)を多く含んでいる輸入木材の併用は避けてください。もし使用される場合は、必ずアルミと接触する部分の木材に塗装するなどの処理を行ってください。
- 商品が腐食する可能性のある接着剤や溶剤などの化学薬品に、接することがないように注意してください。
- 組み立て、施工時は、商品にキズがつかないように十分注意してください。
- 組み立て、施工用のボルト、ビスは規定本数(当社指定純正品)を確実に締め付け、固定してください。
- 商品にバリがある場合は取り除いてください。特に切り詰めなど現場加工の場合は必ず行ってください。
- 組み立て、施工時に、雨水がたまらないように十分注意してください。
- 商品の一点をハンマーで叩いたり、ハンゴをかけるなどして強い衝撃を与えずと破損事故の原因になりますので、絶対しないでください。
- 商品を異なる材質のものに固定すると温度差により多少伸縮する場合があります。施工時に、商品に必ず大きめの穴をあけて固定してください。
- 組み立て、施工時、商品にコンクリート(またはモルタル)の抽出液が付着しないように注意してください。抽出液は強アルカリ性のため、施工後シミ、ムラなどが発生し、外観不良の原因になります。付着した場合は、速やかに水を含ませた布などでふき取ってください。
- 雨水等の浸入防止のために、必要な箇所には必ずシーリング材を充填してください。

組立・施工上のご注意



- 組み立て、施工終了後は、必ず商品が正しく組み立てられているか確認してください。特にボルト、ビスなどにゆるみがないか確認してください。
- 組み立て、施工終了後は、施工時の汚れをきれいに取り除いてください。
- 施工後の残材は他の一般廃棄物と区別し、素材別に分けた上で専門業者に処理を委託してください。
- 構造物、建築物の屋根などからの雪の落下を受けない位置に設置してください。
- 積雪のある地域では、雪により商品が倒壊しても危険がない場所に設置してください。
- 安全を確保するため、組み立て、施工は必ず専門の業者が行ってください。
- 商品の改造は絶対にしないでください。商品の性能が落ち、強度不足による破損、倒壊の可能性があり危険です。
- 誤った使用を避けるため、組み立て、施工終了後、必ず取扱説明書はお施主様にお渡しして、取り扱いの注意、メンテナンスについて説明してください。

使用上のご注意



- アルミ製品は、高温になる場所では他の金属材料に比べて熱による変形が生じやすい材料です。商品の近くで火気を使用しないでください。
- 運動具やお子様の遊具、踏み台、ふとんや洗濯物を干す等、目的以外の使用は絶対にしないでください。



- 商品の一点をハンマーで叩いたり、ハシゴをかけるなどして強い衝撃を与えすと破損事故の原因になりますので、絶対しないでください。
- 無理な荷重をかけないでください。商品の上で飛んだり、跳ねたりしないでください。ぶらさがったり、寄りかかたりしないでください。
- 局部的に重い物をのせたり、立てかけたり、ぶらさげたりしないでください。ボールなど投げつけたりしないでください。
- 人が乗ったり、体重をかけたりしないでください。
- 商品の付近で農薬や殺虫剤などの薬剤を使用する場合は、表面に付着しないようにしてください。表面が変色する恐れがあります。
- 安全性の高い材料を使用しておりますが健康を害する恐れがありますので、小さなお子様やペットがなめたり、かじったりしないように注意してください。
- 商品の切り口に切断時のバリが残っている場合や、現場加工にともないささくれが発生する場合があります。手などにケガをしないように、取り扱いには十分注意してください。発見した場合は放置せず、施工店様に連絡してください。
- 商品を改造したり、穴をあけたり、当社オプション品、付属品以外の取り付けは避けてください。商品の性能が低下する可能性があり危険です。
- アルミ製品の表面にキズが付いたり、塗装はがれが生じると、商品の腐食や強度低下の原因になりますので、取り扱いには十分注意してください。
- 長くお使いいただくためには定期的なメンテナンスをおすすめします。
- 安全のため、定期的な接合部のボルト、ナット、ビス等にゆるみがないか確認して使用してください。ゆるみがあれば締め直しを行ってください。お施主様でできない場合は施工店様に依頼し必ず直してください。
- 商品が破損したり、グラつく場合は、すぐに施工店様に連絡してください。破損したままで使用していると事故の原因となり危険です。

メンテナンスのご注意

◆汚れの程度と掃除方法

| 内容 | 用具 | 方法 |
|----------|--------------------|--|
| 軽い汚れの場合 | 柔らかい布 スポンジ 水 | 柔らかい布、スポンジで水ぶきした後、からぶきしてください。 |
| ひどい汚れの場合 | 柔らかい布 中性洗剤 | 中性洗剤を薄めた液で汚れを落とし、洗剤が残らないように水洗いしてください。その後、からぶきしてください。 |

◆お手入れのご注意

- お手入れには布やスポンジなどの柔らかいものを使用してください。
- 金属ブラシ、金ペラ、スチールワール、目のあらい紙ヤスリなどは使用しないでください。
- 小石、砂などが付着したままこすると、アルミ表面にキズが付きます。あらかじめ取り除いてください。
- アルコール、ベンジン、アセトンなどの有機溶剤や石油類などは使用しないでください。
- 小さなキズでも早めに補修されることをおすすめします。水に濡れたときはからぶきしてください。
- 安全のため、定期的なガタツキがないか確認してください。
- 工業地帯や海岸の近くなどでは、状況によりお手入れの回数を増やしてください。
- 定期的なお手入れにより、アルミ製品をいつまでも美しく保つことができます。

●お手入れ回数の目安

| 海岸地帯 | 工業地帯 | 市街地 | 田園地帯 |
|-------|-------|---------|---------|
| 年1~4回 | 年1~3回 | 年0.5~2回 | 年0.5~1回 |

廃棄について

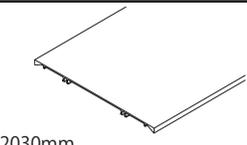
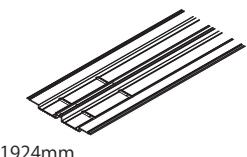
ご不要になった商品、また現場で発生しました残材等につきましては、各地域の条例等に従って正しく処分してください。

部品の確認

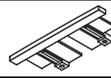
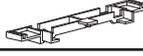
※部材の数量は購入した内容により異なります。

■スレンダーキャップ 梱包明細

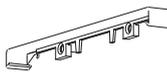
◆ 笠木セット L20

| 名称 | 姿 図 | 数 量 |
|----------------------|---|---------|
| 笠木 |  2030mm | 1 |
| ベース |  1924mm | 1 |
| φ5×40 トラスタッピン1種ビス |  | 12 (20) |
| コンクリットプラグ |  | 12 (20) |

◆ 笠木端部キャップセット

| 名称 | 姿 図 | 数 量 |
|-------------------|---|-----|
| 笠木 端部キャップ |  | 2 |
| ベースキャップ |  | 2 |
| φ4×6 皿タッピン3種ビス |  | 4 |
| 組立・施工・取扱説明書 |  | 1 |

◆ 笠木連結カバー

| 名称 | 姿 図 | 数 量 |
|-------------------|--|-----|
| 笠木連結カバー |  | 1 |
| φ4×6 皿タッピン3種ビス |  | 2 |

施工手順

① ベースの取り付け P.4~7



② ベースキャップの取り付け P.6



③④ 笠木の取り付け P.7、8

⚠ ご注意

笠木はガタツキが出ないよう、きつめに納まる設計としております。万一、施工の途中ではめてしまうと後工程に支障をきたす場合がありますので、③-④、④-④まで笠木をはめないでください。

■L字納まり

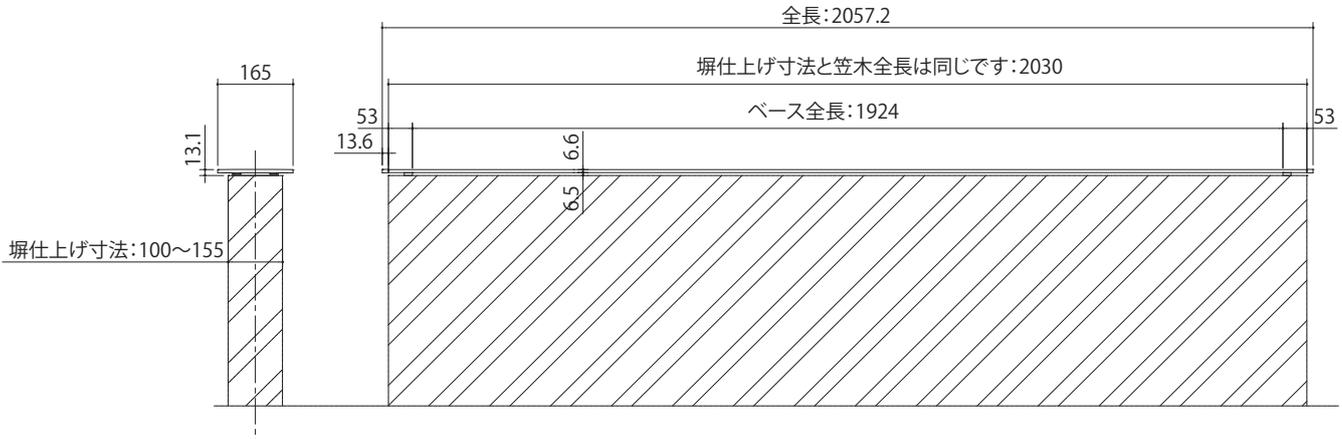
- ①基本納まりの施工手順を参考に、天面の施工を仕上げてください。
- ②側面の立ち上がり面の笠木・ベースの全長は
掘仕上寸法+6mmです。
(P.4基本納まり図 L字納まり参照)
- ③ベースの取り付けは、天面笠木端部キャップに突き合わせて
すき間のないように、コンクリットプラグで固定してください。
(P.6参照)
- ④最後に笠木を天面笠木端部キャップに突き合わせて
すき間のないように、ベースに嵌合させてください。
(P.7参照)

⚠ ご注意

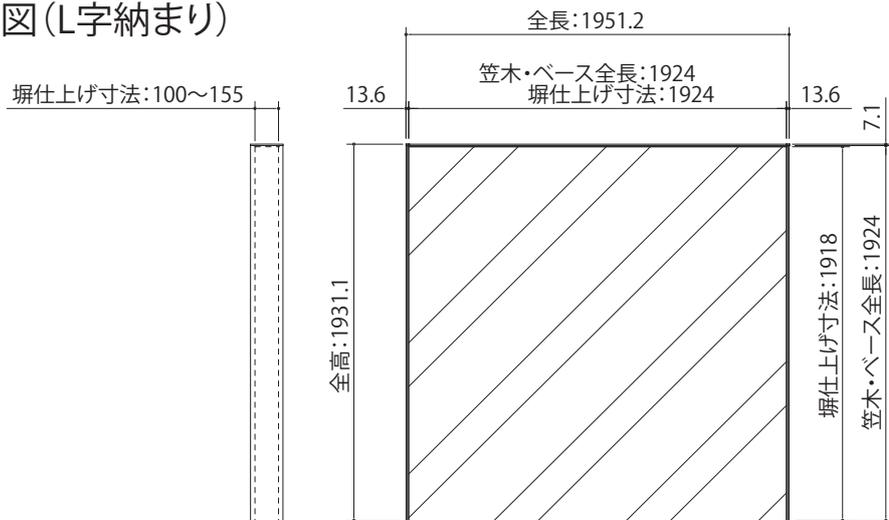
L字納まりの場合、ベースキャップは使用しません。

組立・施工

■基本納まり図

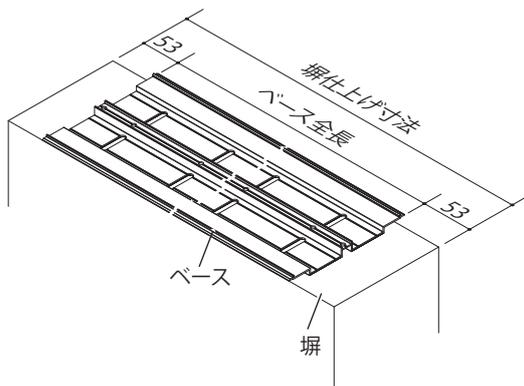


■基本納まり図(L字納まり)



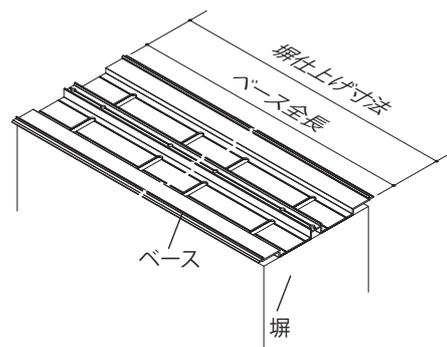
笠木とベースを同じ長さに合わせてください。

■配置図



ベース全長=塀仕上げ寸法-106
ベース全長が1924mmを超える場合は連結してください。

■配置図(L字納まり)

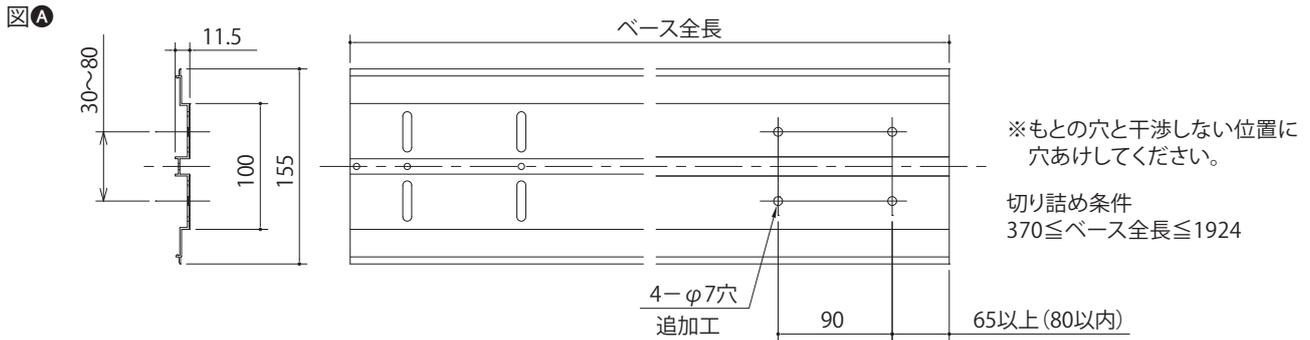


ベース全長=塀仕上げ寸法
笠木全長=ベース全長

組立・施工

① ベースの取り付け

① 塀仕上げ寸法を測り、ベースをベース全長になるように切断し、穴を追加してください。【図A】

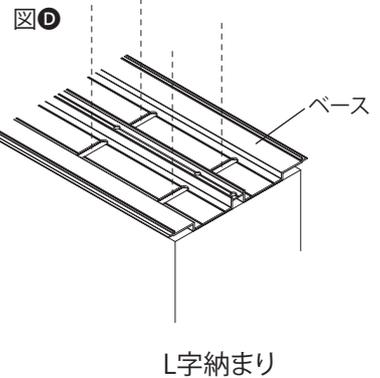
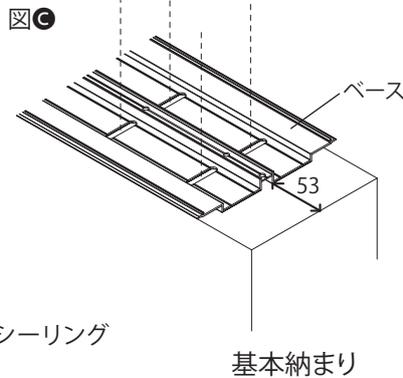
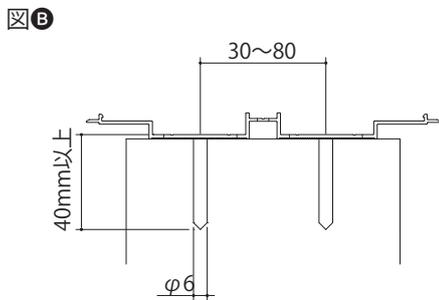


② ベース穴の上から塀にφ6の深さ40mm以上の穴をあけ、穴の中の粉を取り除きます。【図B、C、D】

※穴の位置が塀内の鉄筋(縦筋、横筋など)に干渉する場合は、干渉しない位置で固定してください。部材の穴位置も変更してください。

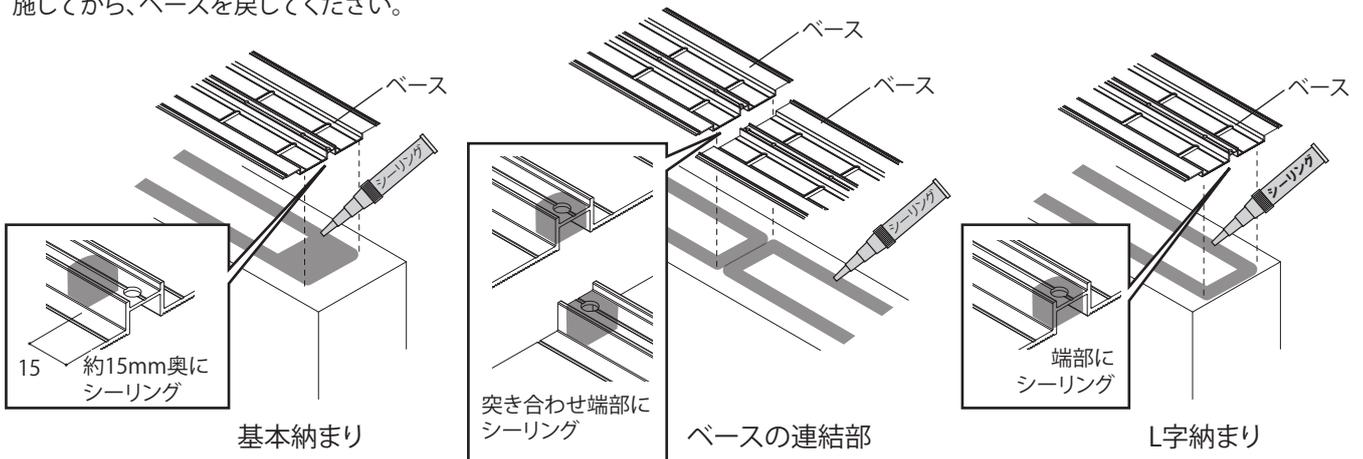
💡 ポイント

塀内への雨水侵入防止のため、必ずシーリングを実施してください。



③ 一度ベースを取り外しベース底面位置にシーリング(現場手配)を施してください。

④ 下図を参考に、ベース溝の入口部分にもシーリングを施してから、ベースを戻してください。

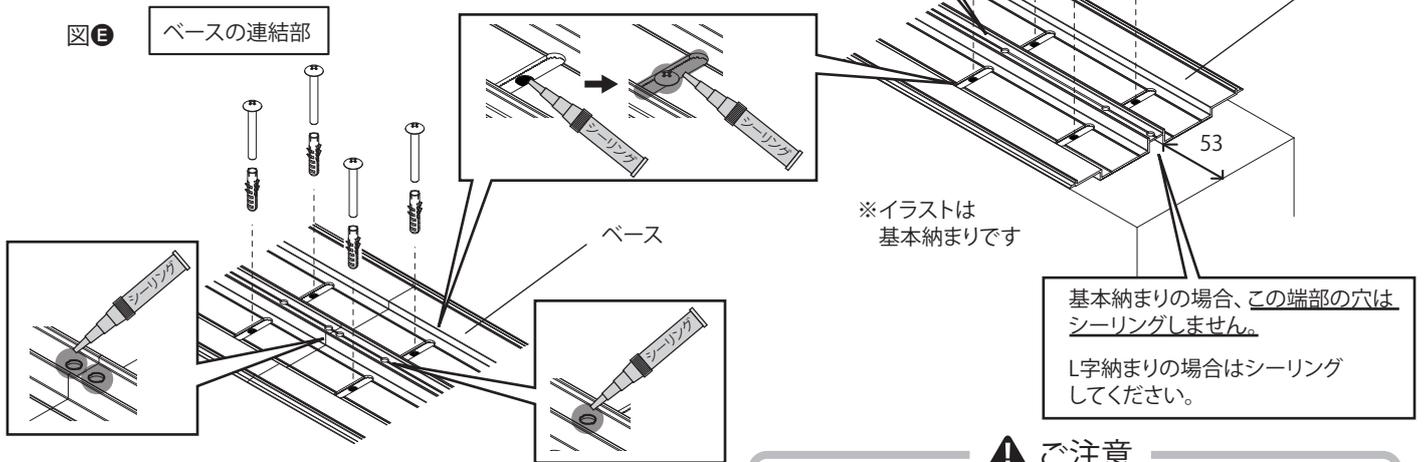


組立・施工

⑤穴にシーリングを充填します。

コンクリットプラグを打ち込み、φ5×40トラスタッピン1種ビスでベースを固定してください。【図E】

⑥ベース固定後ベース長穴とねじ頭とφ5穴にシーリングを施してください。【図E】



※連結させる場合はベース同士がずれないように取り付けてください。

② ベースキャップの取り付け

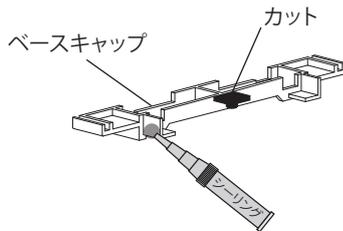
①排水のため両端に取り付けるベースキャップ2個を加工してください。【図F】

②ベースキャップの足をベースのφ5穴に挿して取り付けてください。【図F】

※ベースを切り詰めした場合はφ5穴を追加してください。

ポイント

φ5穴の追加加工がもとの穴と重なる場合は、ベースキャップの加工をして、シーリングを施してください。

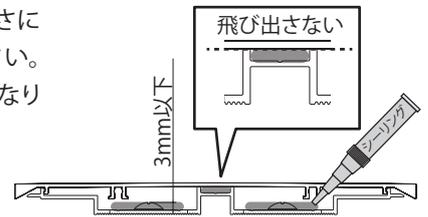


ご注意

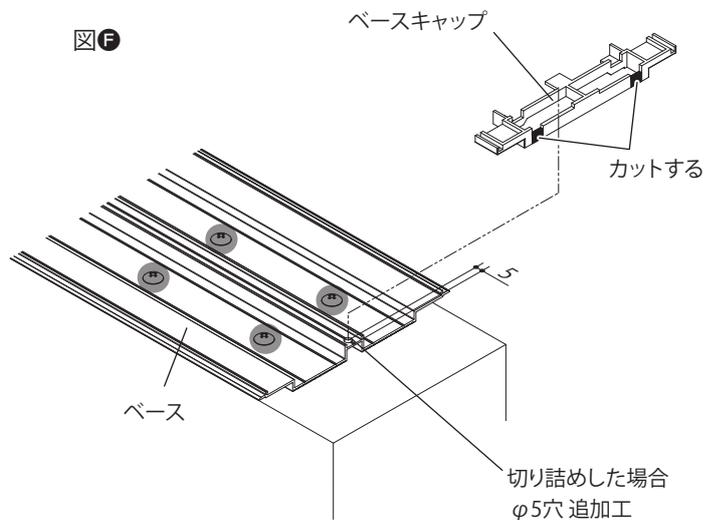
L字納まりの場合、ベースキャップは使用しません。

ご注意

シーリングの高さに注意してください。笠木が嵌らなくなります。



図F



組立・施工

③ 笠木の取り付け

⚠️ ご注意

笠木はガタツキが出ないよう、きつめに納まる設計としております。万一、施工の途中ではめてしまうと後工程に支障をきたす場合がありますので、③-④、④-④まで笠木をはめないでください。

- ① 笠木をベースの上に仮置きしてください。笠木端部は塀仕上げ面と同じです。【図G】
- ② 笠木を必要長さに切断してください。

⚠️ ご注意

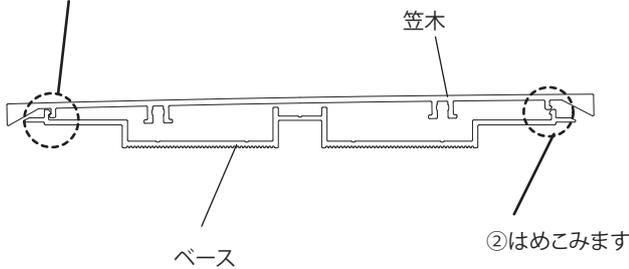
連結する場合はP.8をご確認ください。

- ③ 笠木の両端に笠木端部キャップをφ4×6皿タッピン3種ビスで固定してください。【図H】

- ④ 取り付け位置を確認し、笠木の片側のツメをベースのツメにはめ込み、笠木のもう片方のツメをベースに嵌合させます。キズが入らないようゴムハンマー等で軽くたたいてください。【図I、J】

図I

①片側をはめこみます

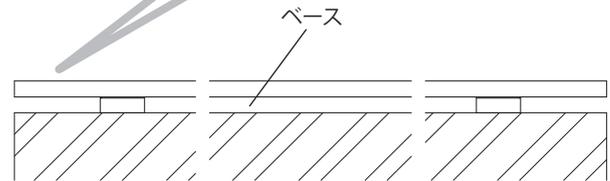


嵌合図

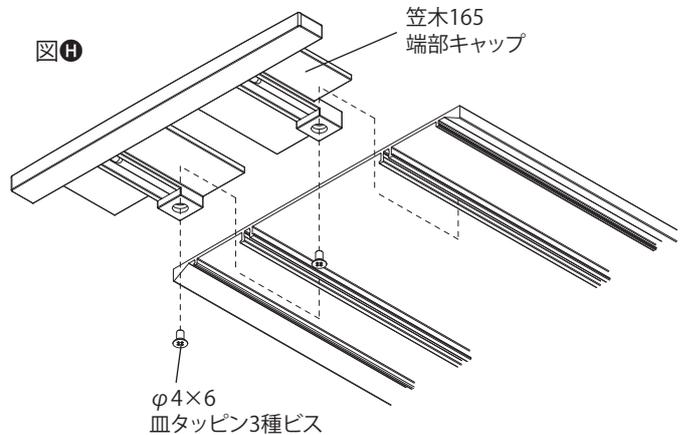
図G

💡 ポイント

笠木をベースの上に仮置きしてください。左右の出幅を合わせてください。



図H



図J



⚠️ ご注意

笠木がベースに確実にハマっているか確認してください。

組立・施工

④ 笠木の取り付け(連結の場合)

⚠️ ご注意

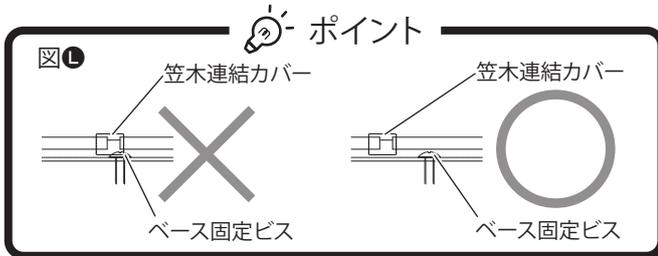
笠木がベースに確実にはまっているか確認してください。

⚠️ ご注意

笠木はガタツキが出ないよう、きつめに納まる設計としております。万一、施工の途中ではめてしまうと後工程に支障をきたす場合がありますので、③-④、④-④まで笠木をはめないでください。

①笠木をベースの上に仮置きしてください。笠木端部は塀仕上げ面と同じです。笠木は、ベース固定ビスがないところで連結させてください。笠木同士を7mmすき間をあけてください。【**図K、L**】

②笠木を必要長さに切断してください。

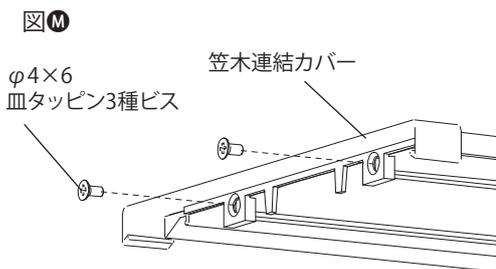


③右**図N**で笠木端部キャップ、笠木連結カバーの取付位置を確認し、φ4×6皿タッピン3種ビスで固定してください。

【**図M**】

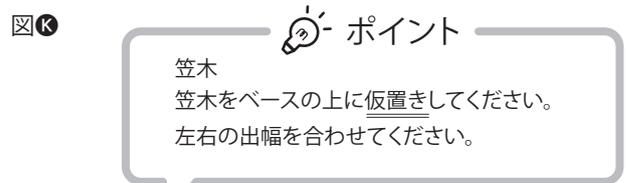
※笠木端部キャップの取り付けはP.7の③-③をご確認ください。

【**図H**】



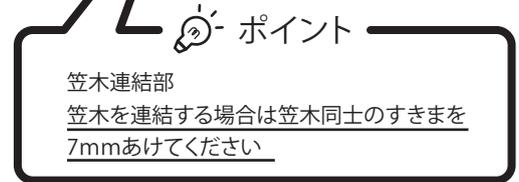
④端部から順にベースに嵌合させてください。笠木同士を7mmすき間をあけて嵌合させてください。連結カバーを取り付けている笠木は**図O**のように笠木に笠木連結カバーをひっかけた状態でベースに嵌合させてください。

※笠木の取り付けはP.7の③-④をご確認ください。【**図I**】



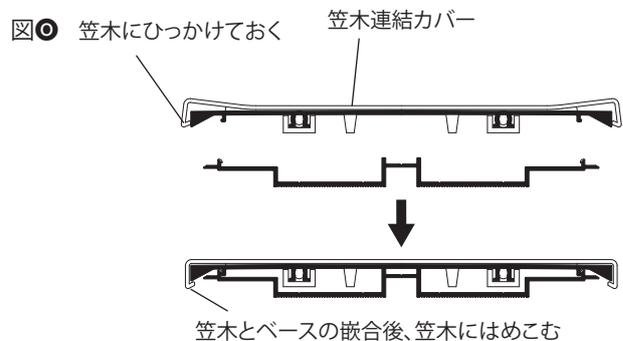
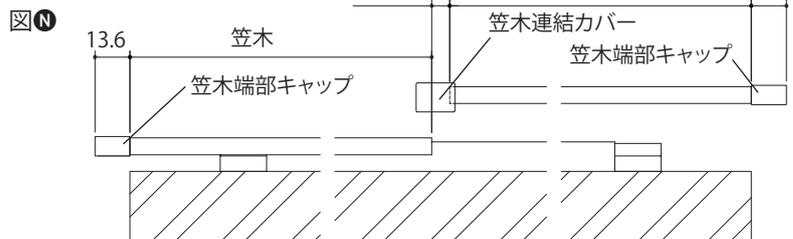
💡 ポイント

笠木
笠木をベースの上に仮置きしてください。
左右の出幅を合わせてください。



💡 ポイント

笠木連結部
笠木を連結する場合は笠木同士のすき間を7mmあけてください



笠木とベースの嵌合後、笠木にはめこむ